

令和6年度 第3回彦根市地域スポーツ・文化クラブ活動整備推進協議会

【スポーツ体制整備部会】

日時：令和6年12月13日(金)15:30～16:45

場所：彦根市役所3階 相談室3-1

1 事務局あいさつ

2 報告事項（10 分間）

- ・前回部会会議において出された話の共通部分、共有事項について
- ・最近報道等で紹介された令和7年度以降の全国各市町の取組について（一部）、国が中間とりまとめ
骨子として出された令和8年度以降の考えについて
- ・今年度ホッケーの取組の不調について

3 協議事項（50 分間）

『生徒の休日活動の場をいかにして創り、ニーズに応えられる活動の場を保障していくか』

次回全体会でのスポーツ体制部会からの提案に向けて

案1:認可クラブ体制プランに向けて

【メリット・デメリット】

※大会への出場は、学校部活動を基本とする

- ①. 認可クラブの条件について（※別紙参照）
- ②. 活動団体・指導者の募集方法について
 - 既存団体へ
 - 新規団体は・・・教職員、大学生、保護者も
- ③. 指導者の条件について
- ④. その他(時限を設けるのか、他の体制プランの方がいいか 等)

現行プラン(水泳や剣道のように、休日の活動を切り離す)の考えを広げていくのではない。
学校部活動を維持していきながら、休日活動の場を広げていき、学校から少しずつ切り離していく。

案2:地区割り体制創設プランに向けて

【メリット・デメリット】

※大会への出場は、学校部活動を基本とする

- ①. 市内7中学校の地区割りについて（※別紙参照）
- ②. 指導者の体制について・・・兼職兼業教員が中心となるか
- ③. その他

地域の既存団体に、中学生の受け入れについては依頼していく。

4 事務連絡

- ・次回会議（最終の全体会）・・・ 2/13（木）15:30～ 市役所5F 5-1会議室
→各部会からの報告(各5～10分間)を行いたいと思います。委員の方々からお願いします。

5 事務局あいさつ

【意見等】

- ・ホッケーの地域指導者がクラブチーム化を選ばれるとのことで、生徒の受入れ口を整備してくださったことはよかった。その競技に複数の技術レベルがあることが理想的である。特に、競技人口の少ない競技においては、それがなおさらである。競技力を高めるという点ではよいが、たしなむ程度にやりたいと思っている生徒が入れる場所がないのも課題として残る。

【案１ 認可クラブについて】

- ①大会への出場は、指導者も生徒もモチベーション維持につながる。これがないと、魅力を感じないので、入ろうと思う生徒は少ないと感じる。
- ②スポーツ教室を開いたとしても、小学生ですら参加者は少ない。中学生となると、ほとんど参加しないのではないかと。指導者側が学校へ出向く形のようなものでないと厳しいと感じる。
- ③提示している「大会への出場は、学校部活動を基本とする」ということに相対する「地域クラブを基本とする（＝平日の学校での活動を個人スキルアップ）」という方がよいのではないかと。
- ④プロシードアリーナで行われている、近江高校のバレーボール部の先生が企画されて実行されている「バレーボール教室」は毎回参加者が多い。
→参加費は都度〇百円というような形でされている。所属高校生部員が指導者サポーターとなり、教室の運営にあたっている。教室の雰囲気はとてもよいように見える。
- ⑤月謝 3,000 円であれば、どんな競技でも運営は可能であると思う。しかし、施設使用料がかからない学校施設を使うことが前提である。
- ⑥認可クラブの特典として、「学校施設を使用することができる」とした場合、それが多数集まると、学校部活動も休日に行うとなったとき、施設使用時間の調整が難航すると感じる。
- ⑦各競技団体、各競技協会に対し、地域移行の受け入れへの協力を依頼し、どのように考えられるのかを待ってみるといっても、段階としてはするべきかと思う。

【案２ 地区割り体制創設プランについて】

- ①大会出場は学校部活動単位という前提がある中での本プランは、無理がある。合同練習の形を考えると確かに合理的ではあるが、団体種目での活動となると、手の内をばらすことになったり、士気が高まらなかったりすることが考えられるため、良さを感じられない。個人種目ならできるかもしれないが。
- ②将来的に平日もこのプランを考えていくとなると、生徒の移動時間を考えると、放課後の練習開始時刻が 17 時以降などとなり、冬場の練習はできないものと考えられる。また、夏場についても、体育館の地域開放が 19 時前後から始まるため、活動が不十分なことになるとも考えられる。
→施設利用は学校が優先なので、一般開放を止めることもできるが、これは現実的ではないと思う。
- ③このプランの指導者については、兼職兼業教職員が中心となることが予想される中で、練習をコーディネートする者への負担感が非常に大きくなることが考えられる。
- ④各競技の指導者は、活動場所の学校に兼職兼業教職員が配置されていることが理想的である。この取組を教職員の人事と絡めるなど到底できないことと考えられるため、現実的ではない。
- ⑤このプランを実行するのであれば、平日の学校部活動を行わない、大会出場はこのチームで行うというのであれば、できる可能性は高まる。しかし、学校側とのかなり綿密な協議が必要だと思う。

- ・案１、案２について協議したが、どちらも多かれ少なかれ課題が見える。どんなスタイルがふさわしいのか、ここでは決められない。
- ・そもそも、平日は学校部活動を維持し、休日の部活動の地域移行と話しているが、ここに無理が生じてしまうと感じられる。
- ・部会での話し合いには限度がある。具体的な話し合いはできるが、肝心の部分（いつから行うのか、どんな形で行うのか、誰が指導するのか 等）を確立するために、協議を重ねなければならない。その組閣メンバーのレベルも問うていかなければならないだろう。
- ・実施団体へのアプローチができていないので、それを行う必要がある。おそらく、やりたい・やってみたい団体はあると思う。やれることをやってみてからの構想づくりが必要ではないか。